

“わたしのまち”

# 新宿区

## 新宿区に残る、趣深いまち並みを巡って

区内の穴場的観光スポットを楽しもう

いつも訪れるまちにも、ちよつと横道に入るとこれまで見られなかった新鮮な情景に懐かしさを覚えたり、こんな場所があったのかと驚くことがあります。区内でも有数の繁華街を持つ新宿区にも穴場的な観光スポットが点在し、観光客の注目を集めています。



新宿駅の昭和30年頃の姿。昭和の懐かしい風景だ

### 区内に残る趣深いまち並み

新宿区といえば、日本一の乗降客数を誇る新宿駅をはじめ、高層ビル群、歌舞伎町で最近話題となった新宿東宝ビルのゴジラ像など、にぎやかさや華やかさといった都会そのものをイメージする人が多いでしょう。しかし、区内には懐かしさを感じさせるまち並みも多く残されています。例えば、明治期に花街としてにぎわい、今もその面影を残す神楽坂は、趣のあるまち並みが観光スポットとして人気を集めています。こうしたまち並みは今、海外からの旅行者に人気があり、訪れる観光客は年々増えています。実は新宿区には神楽坂以外にも、外からの観光客にも知られていない、穴場的な、昭和の懐かしさを感じさせ、てくれる趣深いまち並みが多数存在しています。

### 穴場的なまち並みへ足を延ばして

丸ノ内線四谷三丁目駅からほど近い荒木町は郷愁を誘うまち並みのひとつと言えます。ここは、古くは美濃国高須藩松平家が藩邸を構えていた地でした。現在の荒木町の辺りには大きな池と庭園があ



昔の荒木町の様子。花街の面影が至るところに残っていた



右上は荒木町、下は舟町・荒木町の現在の様子。夜になると雰囲気のあるまちとなる。

©新宿〜御苑〜四谷タウン誌 [JG×STUDIO ALTA]

りました。明治時代に民間に払い下げられ、池の周りには多くの人が訪れる景勝地となりました。

その後、池の周辺に茶屋ができ、花見や月見など宴や行事が行われるようになります。荒木町には料亭や芸者が増え、昭和3年には芸妓屋(置屋)が83件、芸妓は226人にのぼったといえます。

第二次世界大戦の痛手を受けたものの、戦後の復興により昭和30年には置屋47軒、料亭と待合は44軒あったという記録が残されています。

しかし、娯楽の多様化などに伴い、置屋は徐々に姿を消し、三業組合(「三業」は置屋、待合、料亭を指す)は昭和58年に解散するなど、まちの雰囲気は変わっていきました。

また、バブル崩壊などにより接待などに利用される機会も減り、また、古くからの店は店主の高齢化が進むなどして閉店が増加、まちの空洞化が進みつつありました。

そこで平成24年度に区から「商店街空き店舗活用支援融資」を受け、空き店舗の活用に取り組んだことにより若い世代の出店も増え、さまざまなジャンルのリーズナブルで個性的な飲食店が並ぶようになりました。

昔の荒木町を知る人には、大人の雰囲気や料亭などの高級な店が立ち並び、手が届かない印象があるかもしれませんが、現在は、老若男女が落ち着いた

## 新宿駅周辺に残る、雰囲気あるまち並み

思い出横丁やゴールデン街といえば、誰もが一度は耳にしたことがある、新宿有数の歴史ある飲み屋街です。

新宿駅周辺のビル群やデパートの陰に隠れ、こうした古くからある雰囲気あるまち並みに気づかず素通りしてし

雰囲気の中で気軽に飲食を楽しむ魅力あるまちになっています。

荒木町は、杉大門通りと車力門通り、柳新道通りからなっており、少し横道に入れば石段や石畳の道など、当時の花街の様子を思い起こさせます。

車力門通り沿いには荒木公園があり、隣りには長い間まちを見守ってきた金丸稲荷が鎮座しています。

また、津の守弁財天や当時の池の一部となる策の池があり、昔の庭園の雰囲気を感ずることが出来ます。

なお、近隣地域には新宿通りを挟んだところに、鶴屋南北作『東海道四谷怪談』に登場する「お岩」が居住していた左門町、お寺や坂のある須賀町など落ち着いた雰囲気のみち並みもあります。日中にぶらりとまち歩きに訪れるのも良いかもしれません。

まいがちですが、最近では、趣ある雰囲気や値段のリーズナブルさから若者にも人気のナイトスポットになっています。

### それぞれのまちの成り立ち

**★思い出横丁**  
思い出横丁は、戦後焼け野原になっていた新宿西口の地域に出来上がったGHQの統制経済時代の闇市、露天商のマーケット「ラッキーストリート」がその始まりです。当時、戸板一枚で区切られた区画の中で、衣類品・靴・石鹸などの日用雑貨の店や飲食店が並んでいました。

しかし、昭和34年頃になると営団線延長計画や、再開発によるターミナルビルや百貨店の建設などで、多くの店舗が立ち退くことになりました。約300軒あった店舗も駅西口の線



今昔の思い出横丁の様子。時代が変わってもどちらも懐かしさを感じさせる



昔のゴールデン街



年月がたってもゴールデン街は変わらない



路沿いにある新宿西口会館から青梅街道（線路のガード）までの一角が思い出横丁として残り、現在に至っています。

昔と変わらない味、リーズナブルさ、懐かしい雰囲気求めて、今も多くの人がこの一角を訪れます。

**★ゴールデン街**

新宿ゴールデン街は、戦後の公娼制度廃止に伴い、焼け野原となった新宿二丁目から移った人と、新宿駅周辺の闇市から移った人による飲食店街で形成されたのが始まりでした。

昭和33年の売春防止法施行後、飲み屋街という風情になり、現在の「ゴールデン街」と呼ばれるまちを形成していきます。

昭和40年代は著名な作家や芝居、映画関係者が出入りするまちとして注目を集めました。バブル期となる昭和50年代後半から平成初期には地上げにもあいました。

しかし、店の有志たちがまちの活性化のためにさまざまなイベントを実施したり、2000年の定期借家法施行に伴い出店がしやすくなるなど環境の変化もあつたことから、ゴールデン街は再び活気を取り戻しました。現在ある約270もの店には、気軽な店から個性的な店まで幅広く揃い、訪れる人の思いにあわせて楽しめるまちです。

ゴールデン街に寄つた際にはみどりの新宿30選にも選ばれ、武蔵野の面影をしのぼせる「新宿遊歩道公園」四季の路「や花園神社」や花園神社に立ち寄るのも楽しいのひとつです。



荒木町で実施される「ミシラン」。今年も11月に実施される

ゴールデン街でも数々のイベントが実施されている「ゴールデン街納涼感謝祭」



思い出横丁で実施された「街並み絵巻プロジェクト」



十二社熊野神社例大祭。思い出横丁でもイベントが行われる



## イベントをきっかけに気軽に訪れてみよう

これまで取り上げたまちは、どちらも1区画に小さな店が軒を並べ、何度訪れても飽きません。しかし、初めて訪れる人には常連が多くお店に入りづらいと思うかもしれません。

荒木町、思い出横丁、ゴールデン街では、初めて訪れる人にも飲み屋街を楽しめるようなイベントを行っています。

荒木町では、「ミシラン」（低価格で食べ歩きや飲み歩きができるイベント）や毎年秋に行われる「四谷大好き祭り」が、思い出横丁では毎年9月に「十二社熊野神」が行われる地域の氏神様「十二社熊野神」

社例大祭」や「思横秋祭り」に合わせたイベント、ゴールデン街では夏場に「納涼感謝祭」、春先は「新宿・花園ゴールデン街桜まつり」が行われています。初めて訪れる人は、こうした地域のイベントをきっかけにするのも良いでしょう。

新宿区は、イメージされる近代的な印象と違った、昔懐かしいまち並みが地域に点在しています。地域を絞って一日散策を楽しみ、夜は飲食店で舌鼓を打つのも新宿の新たな姿を発見できるのではないのでしょうか。